



第16回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開されている関西の先生方にご講演をいただき、製薬、医療機器、診断薬、健康食品、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイメージーションを感じていただくことを目的としています。このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティの醸成と、産官学の対話促進につながるものと期待しています。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題をお聞きいただけます。また、交流会では講師の先生と直接お話しいただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：2018年7月3日（火）15:00～18:00

会場：ナレッジキャピタル カンファレンスルーム (C05)
(グランフロント大阪 タワーC 8階)

地図：<https://www.kc-space.jp/accessmap/conference/towerc.html#jump>

参加費：無料（交流会：1,000円）

主催：NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議・公益財団法人 都市活力研究所

共催：NPO法人 バイオグリッドセンター関西

後援：関西医薬品協会

講演 I 15:00-16:00

「細胞老化による発がん制御機構の解明とその制御」

大阪大学 微生物病研究所 遺伝子生物学分野 教授 原 英二

私たちの身体を構成する細胞は、異常を感知すると増殖を停止する安全装置を備えている。細胞老化はこの安全装置の一つであり、細胞の異常増殖を抑えるがん抑制機構として生体の恒常性維持に寄与していると長い間考えられてきた。しかしその一方で、組織幹細胞に細胞老化が起こると、組織修復能が低下して個体老化を促進する可能性も指摘されてきた。また、最近の研究により細胞老化を起こした細胞（老化細胞）は単に細胞増殖を停止して大人しくしているだけではなく、炎症性サイトカイン、ケモカイン、増殖因子や細胞外マトリックス分解酵素など、炎症や発がんを引き起こす様々な分泌因子を高発現する SASP と呼ばれる現象を起こすことで加齢性疾患や生活習慣病の発症に関与していることも明らかになりつつある。我々は細胞老化には SASP に限らず様々な発がん促進作用があり、加齢や肥満に伴い体内に老化細胞が蓄積することが恒常性を破綻させ、がんを含めた様々な炎症性疾患の発症を促進することにつながると考えている。本講演では、細胞老化研究のこれまでの経緯と最近のトピックスを中心に細胞老化の恒常性維持に対する正と負の役割について紹介する。

講演Ⅱ 16:00-17:00

「iPS細胞を用いた再生医療の実用化に向けて」

大日本住友製薬株式会社 取締役 執行役員 木村 徹

再生医療の実用化に向けたプロジェクトが産学官の強力な連携の下で進められている。すでに世界に先駆けて2014年にiPS細胞から作製した網膜色素上皮細胞シートを用いた臨床研究が実施されているが、いよいよ複数のプロジェクトで薬事承認を目指した臨床治験の開始も近づいてきた。弊社でも承認後の商用生産にも対応できる生産施設を建設するなど実用化への取組を加速している。

ここでは弊社の例を中心にiPS細胞を用いた再生医療の実用化に向けた取組の現状についてご紹介したい。

17:00-18:00 交流会・名刺交換会

申込先：参加希望者は2018年7月2日（月）までに、公益財団法人都市活力研究所のWEBサイトからお申込みください。ただし、定員（70名）に達し次第、締め切らせていただきます。

URL：<http://www.urban-ii.or.jp/>

問合先：NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（梅村、松村、大嶋）
公益財団法人都市活力研究所 電話：06-6359-1322（味村、安藤）